

さやけきにはに つどえる我等

校長 今西 昭(57回)



「甲陽学院のうた(学院歌)」が制定されたのは、今から60年前、創立40周年記念事業の一環としてでした。それに先立つこと約10年間、発足したばかりの新制甲陽中学では校歌「我等」(丸谷緑野作詞)が歌われていました。その二番の歌詞は、次の通りです。

きはみ無き
空にして、ここ
さみどりの
さやけきにはに
つどえる我等、

ともにいゆかむ。

* 言葉遣い、句読点の打ち方については旧教職員山内英正先生のご教示にしたがった。
(『ル・クール』創刊号1988年所収「“甲陽”時代の丸谷喜市氏」)

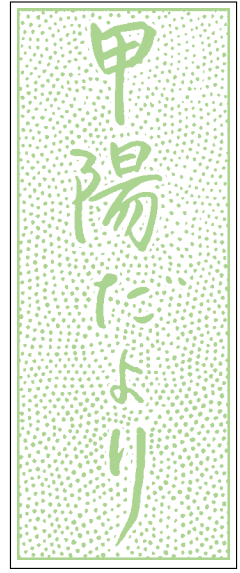
香櫨園のあの中学校の学び舎、さやけき庭に生徒と教職員が和気藹々と集い、「ともにいゆかむ」とする日々が美しく描かれています。「(「いゆく」は「行く」の意。)作者の丸谷緑野とは、本校第4代校長の丸谷喜市先生です。丸谷先生は高名な経済学者であると同時に、石川啄木の親友にしてみずからも詩人でありました。緑野は丸谷先生の号です。この詩の要は「さやけき」にあると考えています。「さやけし」とは「清らかでさっぱりしている」「すがすがしい」といった「澄みきった美しさ」を表します。大げさな話になりますが、この「さやけさ」こそ甲陽の根本精神ではないでしょうか。

初代校長伊賀駒吉郎先生が甲陽の特色として指摘された「生徒の明朗・澁瀨・無邪気の点」も、「私心のなさ」すなわち「さやけさ」に通じる美徳でありましょう。

また第5代校長芥川潤先生は、甲陽の伝統校風として「純粹の気であり清潔の風である」と断じ、続けて「甲陽は頭のとっぺんから足のつまさきまで純粹にして清潔な学園である。建学の精神において、経営の方針において、また教育の実際において純粹そのものであり、清潔そのものである。教育の場である学校として当然のことであるかも知れぬが、いささかの妥協もなく、一切の情実を排除して、徹底して純粹であり清潔であることは、私学としてなまやさしいことではない」と述べておられます(『甲陽学院新聞』第90号「就任十周年に際して」)。さらに、甲陽を武庫枝川の清流のほとりに湧き出でた泉に喩えられたのも芥川先生で、「その水清きこと玉の如くかつて穢れを知らず、その流れ静かなれどやむことなし」とも記されています(『創立四十周年記念誌』学校長挨拶)。

甲陽はエリート育成を目指した学校です。英国のパブリック・スクールに範をとり、真のエリートを育成することが丸谷先生の理想だったと聞きます。言うまでもなく、エリートには一般の人々とは違う厳しい倫理観や潔癖さが求められます。「李下に冠を正さず」の行動規範が求められます。社会や組織のリーダーとして公平・公正な指導力が求められます。昨今わが国の「エリート」たちの情実にまみれた振る舞いの数々を見るとき、甲陽の根本精神が「さやけさ」にあったことをあらためて誇りに思うのです。

このたび第11代校長に就任いたしました。甲陽の卒業生が校長になるのは初めてだそうです。私もこの学校でずいぶん楽しい歳月を過ごすことができました。その恩返しの気持ちを胸に、しばらくは「清き泉の番人」になって微力を尽くす所存です。



発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 西村貞一
印刷所
株式会社小西印刷所

同窓会事務局専用
TEL 0798-71-4888
(月・水・木 10:00~16:00)
FAX 0798-71-4890
E-mail :
fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp
同窓会ホームページ
<http://www.koyogakuin-oba.jp>



兵庫県西宮市鞍掛町7番7号

■ ショップ
電話: 0798-35-0286
営業時間: 10:00~19:00
定休日: 火曜日

■ レストラン
電話: 0798-35-0001
営業時間: ランチ 11:00~15:00 (L.O. 14:30)
ディナー 17:00~22:00 (L.O. 21:00)
定休日: 火曜日



木漏れ日のある酒蔵の店

公益財団法人
白鹿記念酒造博物館
電話: 0798-33-0008
開館時間: 10:00 ~ 17:00
(入館は ~ 16:30)
休館日: 火曜日
兵庫県西宮市鞍掛町8番 21号

会 務 報 告

平成29年4月26日に行われました同窓会役員総会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

1 平成28年度活動報告

会報編集委員会の久委員長から、第94号を7月29日付で、第95号を2月28日付で発行したことが報告されました。

会員総会運営委員会から、昨年8月27日に行われた会員総会について、203名の参加があったことや、収支(約26万円の支出超過)についての報告がありました。

甲陽ファンド管理委員会の山崎委員長から、平成28年度の募金総額が3,369,271円であったこと、平成29年3月までの収入総額が、利息収入を含めて77,857,624円となっていること、現在まで延べ75名の在校生に一人年額20万円が支給されてきた実績などが報告されました。

会員名簿編集委員会の久委員長から、2017年2月1日に発行された会員名簿について最終報告がありました。(詳細は本紙3頁)

2 平成28年度決算報告・監査報告

本頁下段に掲載の決算報告書が箱田副会長から説明され、二宮監事、水島監事、植木監事からの監査報告を受けて、平成28年度決算が承認されました。

3 平成29年度活動方針と予算

平成29年度の活動方針として、会報編集委員会からは従来通り年2回の会報発行の方針であること、会員総会運営委員会からは8月26日の会員総会の概要(詳細は別刷案内参照)が述べられました。また、奨学金ファンド管理委員会からは同窓会奨学金の見直しについて提案があり、承認されました。(詳細は本紙8頁)

その上で、箱田副会長より本頁下段に掲載の予算案の説明があり、承認されました。

● 平成28年度 決算報告書 ●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	決算額	予算額	差引額	科 目	決算額	予算額	差引額
会 費	12,355,000	9,100,000	3,255,000	人 件 費	2,111,840	2,116,000	△ 4,160
年 会 費	1,839,000	1,300,000	539,000	月 手 当	1,536,000	1,536,000	0
終 身 会 費	2,886,000	1,300,000	1,586,000	夏 冬 手 当	320,000	320,000	0
新 卒 入 会 金	1,272,000	1,200,000	72,000	通 勤 費	255,840	260,000	△ 4,160
新 卒 年 会 費	2,968,000	2,800,000	168,000				
新 卒 終 身 会 費	3,390,000	2,500,000	890,000	交 通 費	0	100,000	△ 100,000
名簿委託収入	10,871,560	0	10,871,560	需 用 費	561,463	760,000	△ 198,537
名簿販売収入	80,000	0	80,000	通 信 費	310,936	400,000	△ 89,064
会報広告料	30,000	60,000	△ 30,000	事 務 消 耗 品 費	54,223	60,000	△ 5,777
総会会費収入	1,104,500	1,300,000	△ 195,500	備 品 費	64,800	100,000	△ 35,200
会員交流会費	0	200,000	△ 200,000	IT 関 係 費	131,504	200,000	△ 68,496
利子収入	3,587	10,000	△ 6,413				
ストラップ収入	1,200	0	1,200	会 議 費	2,297,053	2,500,000	△ 202,947
雑 収 入	0	0	0	会 員 総 会 費	1,366,310	1,500,000	△ 133,690
寄 付 金	0	0	0	役 員 総 会 費	201,452	250,000	△ 48,548
収入合計	24,445,847	10,670,000	13,775,847	理 事 会 費	235,666	250,000	△ 14,334
特別積立金繰入	0	0	0	委 員 会 費	322,317	300,000	22,317
基本金繰入	0	10,000,000	△ 10,000,000	懇 談 会 費	171,308	200,000	△ 28,692
繰 越 金	9,421,749	9,421,749	0	事 業 費	3,511,551	13,890,000	△ 10,378,449
合 計	33,867,596	30,091,749	3,775,847	甲 陽 だ よ り	1,061,443	1,100,000	△ 38,557
◎ H29年3月末日現在 現預金残高明細				郵 送 料	1,454,242	1,500,000	△ 45,758
* 三井住友銀行(普通預金)	23,051,004円			振 替 用 紙	137,894	140,000	△ 2,106
* 郵便局(普通預金)	518,602円			封 筒	185,926	200,000	△ 14,074
* // (振替通知票)	9,417,195円			記 念 品	289,246	400,000	△ 110,754
* 池田泉州銀行(普通預金)	1,030円			母 校 後 援 費	75,000	200,000	△ 125,000
* 手持現金	230,732円			会 員 交 流 費	0	200,000	△ 200,000
合 計	33,218,563円			地 域 活 動 費	0	150,000	△ 150,000
甲陽戸預かり金	8,033,539円			HC 記 念 品	307,800	0	307,800
合 計	25,185,024円			100周年事業費	0	10,000,000	△ 10,000,000
				雑 費	200,665	280,000	△ 79,335
				校 内 志	30,000	30,000	0
				慶 弔 其 他	87,575	100,000	△ 12,425
				振 替 料	76,860	100,000	△ 23,140
				其 他 雑 経 費	6,230	50,000	△ 43,770
				支 出 合 計	8,682,572	19,646,000	△ 10,963,428
				特 別 積 立 金 繰 入	0	0	0
				新 基 本 金 繰 入	0	0	0
				予 備 費	0	10,445,749	△ 10,445,749
				支 出 総 計	8,682,572	30,091,749	△ 21,409,177
				入 収 総 計	33,867,596		
				支 出 総 計	8,682,572		
				翌 年 繰 越 金	25,185,024		

(単位：円)

● 平成29年度 予算書 ●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	H29年度	H28年度決算	H28年度予算	科 目	H29年度	H28年度決算	H28年度予算
会 費	9,100,000	12,355,000	9,100,000	人 件 費	2,116,000	2,111,840	2,116,000
年 会 費	1,300,000	1,839,000	1,300,000	月 手 当	1,536,000	1,536,000	1,536,000
終 身 会 費	1,300,000	2,886,000	1,300,000	夏 冬 手 当	320,000	320,000	320,000
新 卒 入 会 金	1,200,000	1,272,000	1,200,000	通 勤 費	260,000	255,840	260,000
新 卒 年 会 費	2,800,000	2,968,000	2,800,000				
新 卒 終 身 会 費	2,500,000	3,390,000	2,500,000	交 通 費	100,000	0	100,000
名簿委託収入	700,000	10,871,560	0	需 用 費	760,000	561,463	760,000
名簿販売収入	250,000	80,000	0	通 信 費	400,000	310,936	400,000
会報広告料	60,000	30,000	60,000	事 務 消 耗 品 費	60,000	54,223	60,000
総会会費収入	1,300,000	1,104,500	1,300,000	備 品 費	100,000	64,800	100,000
会員交流会費	0	0	200,000	IT 関 係 費	200,000	131,504	200,000
利子収入	5,000	3,587	10,000				
ストラップ収入	0	1,200	0	会 議 費	2,900,000	2,297,053	2,500,000
雑 収 入	0	0	0	会 員 総 会 費	1,800,000	1,366,310	1,500,000
寄 付 金	0	0	0	役 員 総 会 費	250,000	201,452	250,000
収入合計	11,415,000	24,445,847	10,670,000	理 事 会 費	250,000	235,666	250,000
特別積立金繰入	0	0	0	委 員 会 費	400,000	322,317	300,000
基本金繰入	0	10,000,000	0	懇 談 会 費	200,000	171,308	200,000
繰 越 金	25,185,024	9,421,749	9,421,749	事 業 費	13,723,000	3,511,551	13,890,000
収入総計	36,600,024	33,867,596	30,091,749	甲 陽 だ よ り	1,100,000	1,061,443	1,100,000
				郵 送 料	1,500,000	1,454,242	1,500,000
				振 替 用 紙	140,000	137,894	140,000
				封 筒	200,000	185,926	200,000
				記 念 品	400,000	289,246	400,000
				母 校 後 援 費	200,000	75,000	200,000
				会 員 交 流 会	0	0	200,000
				地 域 活 動 費	150,000	0	150,000
				HC 記 念 品	0	307,800	0
				100周年事業費	10,000,000	0	10,000,000
				名 簿 発 送 費	33,000	0	0
				雑 費	280,000	200,665	280,000
				校 内 志	30,000	30,000	30,000
				慶 弔 其 他	100,000	87,575	100,000
				振 替 料	100,000	76,860	100,000
				其 他 雑 経 費	50,000	6,230	50,000
				支 出 合 計	19,879,000	8,682,572	19,646,000
				特 別 積 立 金 繰 入	0	0	0
				基 本 金 繰 入	0	0	0
				予 備 費	16,721,024	0	10,445,749
				支 出 総 計	36,600,024	8,682,572	30,091,749

(単位：円)

「甲陽学院創立百周年記念甲陽学院同窓会会員名簿」発行に関するご報告

会員名簿編集委員会

1. 進捗状況

平成29年2月1日 会員名簿発行

発行時点での状況は下記の通り。

(1)調査状況	会員数（含特別会員）	19,467名
	住所判明者数	11,255名
	物故者数	4,769名
	不明者数	3,443名
(2)名簿販売状況	予約者数	2,849名
	うち入金済	2,811名
	うち代金引換数	415名 <うち38名受取拒否>
(3)広告申込状況	申込件数	176件
	申込金額	948.46万円
(4)賛助金申込状況	申込者数	561名 563口

2. 同窓会収入額（平成29年2月2日時点集計）

(1)名簿販売収入還元金（1部あたり1,700円）

$$1,700円 \times 2,450 = \underline{4,165,000円}$$

(2)広告収入還元金（広告収入648万円を超える部分は60%、それ以下は50%。ただし表紙裏プレミアム分216,000円は100%）

$$9,303,600円 - 216,000円 = 9,087,600円$$

$$6,480,000円 \times 50\% = 3,240,000円$$

$$(9,087,600円 - 6,480,000円) \times 60\% + 216,000円 = 1,780,560円$$

$$3,240,000円 + 1,780,560円 = \underline{5,020,560円}$$

(3)賛助金収入還元金 3,000円 × 562 = 1,686,000円

$$(1) + (2) + (3) = \underline{10,871,560円} \text{（平成29年2月22日受領済）}$$

2月2日時点で未収のため確定の遅れていた還元金737,300円は平成29年度会計にて受領。

今後の会員名簿在庫の売上は発送経費等控除額が全額同窓会収入となる。

◆◆◆ 「会員名簿追加販売のお知らせ」 ◆◆◆

会員名簿を入手されていない会員の方でご希望の方は同窓会事務局までお知らせくだされば購入可能です（一部5,000円）。事務局よりお送りする振込用紙でお振込みください。サラト社から以前に送られた振込用紙はお使いいただけませんのでご注意ください。

なお、ご自身の情報が非公開の方には販売しないこととしております。また住所不明等で掲載されていない方・掲載住所と異なる住所への発送を希望される方については一定の手続きのもとに販売いたします。

同窓会事務局 電話：0798(71)4888（月・水・木・金 10:00～16:00）
メール：fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

創 立 百 周 年 記 念 式 典



甲陽学院創立百周年記念式典が 2017 年 5 月 1 日（土）に神戸国際会館こくさいホールにて行われた。在校生・教職員を中心に約 1350 名が列席し、辰馬章夫理事長、今西昭学校長の式辞、西村貞一同窓会長、那須雄次高等学校育友会長の祝辞ののち、同窓会からの目録が西村会長より理事長へと贈呈された。会長からは、「大正・昭和・平成と激動の時代を乗り越えてきた甲陽には、今後も中高一貫の立派な教育をしてほしい。次の百年も『さすが甲陽』と呼ばれるように。」との激励の言葉があった。

引き続き、同窓生によるパネルディスカッションが行われた。河内厚郎氏（52 回：文化プロデューサー）をコーディネーターとして、西村貞一氏（45 回：同窓会長）、深田吉考氏（55 回：東京大学大学院理学系研究科教授）、中西寛氏（62 回：京都大学公共政策大学院教授）、清涼院流水（金井英貴）氏（74 回：作家）の 4 名が「わが甲陽」をテーマに、約 1 時間の座談を交わした。話題は、甲陽



時代の自身の思い出、恩師とのやりとりから、阪神大震災や各パネリストの専門分野などにも及び、懐かしく、興味深く、また在校生にとっても楽しめる内容となった。最後に、河内氏は、「今後の甲陽生には、伝統の甲陽らしさを持ちながらも、より大局的な視点を持ち、人を導いていく人材となってほしい」とまとめた。

（82 回 石井賢吾）



母校創立百周年同窓会記念事業について

同窓会における甲陽学院創立百周年記念事業として、5 月 1 日の記念式典で西村貞一会長より辰馬章夫理事長に一千万円が目録が贈呈されました。この寄附金をもとに高等学校のグランド南東部にクラブハウスが建設される予定です。運動部のミーティングや、活動中に熱中症等で体調を崩した部員の休息、対外試合で来校した他校の顧問・生徒の控室などの用途が考えられています。建築申請の手続きのため、今秋着工、来春完成の予定です。

創 立 百 周 年 記 念 音 楽 会



創立百周年の記念事業の一つとして建て替えられた中学校の新講堂の落成記念の音楽会が、去る5月3日（水）に行われました。今回は創立百周年記念音楽会ということで、フランスから「モラゲス木管五重奏団」を約束どおりお招きしました。パリ管弦楽団の首席クラリネット奏者であるパスカル・モラゲス（2007年にsoloで来校）とフルートのミッシェル・モラゲス、ホルンのピエール・モラゲスの3兄弟と、オーボエのダヴィド・ワルター、ファゴットのジョルジョ・マンドレジを加えた5人のメンバーのうち4人がパリの著名オーケストラの首席奏者であり、かつフランス国立高等音楽院教授という要職に就いています。

今回の演奏会は在校生とその保護者および同窓生からの鑑賞希望の申し込みが定員約1100名の2倍近くありました。真新しいホワイエでは、同窓会から贈られた花が、抽選によって入場整理券を手にしたお客様をお迎えしました。

1曲目のモーツァルト作曲の弦楽四重奏曲第17番は「狩」という名前が親しまれている曲ですが、ダヴィッド・ワルターの編曲により、弦楽四重奏とは趣の違った響きを愉しむことができました。2曲目のファルカシュ作曲の木管五重奏のための17世紀ハンガリー舞曲集は、木管楽器のために書かれたもので、各楽器の持ち味を存分に楽しむことが出来るメリハリの効いた演奏でした。休憩を挟んでからのメンデルスゾーン作曲の弦楽四重奏



曲第2番は、1曲目と同じくワルターの編曲によるものでしたが、木管五重奏のために書かれたのではないかとさえ思える色彩感豊かな、時に激しく時に叙情的に5つの楽器が個性を主張しながら、でも見事に調和した名演となりました。木管五重奏を一つの楽器のように作り上げる5人の高い技術と音楽性を十二分に堪能できたのは言うまでもありません。

満員の聴衆からの鳴り止まない拍手に応え、アンコールは何と5曲。カルメンより「アラゴネーズ」、熊蜂の飛行、「さくらさくら」、ピチカート・ポルカ、「リクディム」。最後のリクディムは5人全員が椅子から立ち上がって舞台上を所狭しと動きながらの熱演で、ラストの“Hoi！”の掛け声で2時間に及ぶ演奏会が締めくくられました。

最後の最後までお客様に楽しんでもらおうという5人の気持ちが伝わる、新しい講堂の幕開けにふさわしい演奏会となりました。



学校だより



中学校新講堂 落成



甲陽学院百周年記念事業として、老朽化していた中学校講堂が建て替えられました。

講堂建替委員会は大川副校長を委員長として発足し、平成 25 年 7 月の第 1 回委員会から学校法人、竹中工務店とともに検討を行ってきました。東京オリンピック開催決定による資材高騰の影響を受け、途中幾度かの計画変更を余儀なくされましたが、平成 28 年 4 月の中学入学式後に着工しました。着工の直前には旧講堂の見納めの会を催し、多数の OB が来校されました。約 11 カ月の工事ののち、平成 29 年 3 月 14 日に竣工式、翌 15 日に引き渡しとなり、平成 29 年 3 月 21 日の 101 回生中学校卒業式より新講堂の使用を開始しました。工事の期間中、平成 28 年度の中学校の音楽と展覧の会は音楽会と展覧会が別開催となり、音楽会は 10 月 31 日に西宮市民会館アミティホールで実施されました。また、その間の始業式、終業式は中学校体育館で行われました。

新講堂は座席数 1099 (1 階席 700、2 階席 399)、冷暖房完備で、座席は甲子園の旧校舎講堂の雰囲気漂わせる木造の長椅子を採用しました。西側通路には 1979 年当時の中学校旧校舎全景、伊賀駒吉郎氏、辰馬吉左衛門氏、辰馬吉男氏の 4 枚の写真が陶板として掲げられています。また、講堂正面の中学校校章は、本校で以前使用されておりました制帽の校章をかたどって作成されました。ステージの演壇は高商時代からのものを引き続き使用しておりますが、校章部分だけは現在の中学校のもの

に取り換え、もともと造形されていた古い校章部分は取り外してロビーに展示しております。定礎の文字は、本校国語科の藤田肇教諭によるものです。

新年度に入り、104 回生中学入学式が 4 月 7 日に新講堂で行われ、新入生とその保護者は 1 階席、2 年生と 3 年生も全員出席して 2 階席に入りました。新入生の集合写真は小雨交じりでしたが例年通り講堂前で撮影することができました。以後、入学式翌日の始業式、5 月 3 日の創立百周年記念音楽会と、順調に新講堂の使用がスタートしております。

なお、講堂建て替えに伴い、旧講堂東側にあった部室棟も併せて建て替えられ、グランドバックネット裏に 2 階建て (1 階が体育倉庫、2 階がグランド使用クラブの部室) 新部室棟が完成し、こちらも平成 29 年 3 月から使用を開始しております。

(75 回 谷晋一郎)



お世話になりました

この春、山下正昭校長と森本保先生が甲陽学院をご退職されました。山下先生は数学科教諭として1973年に着任、その後1999年に教頭、2009年には校長に就任されました。森本先生は数学科教諭として1979年に着任されました。長い間ありがとうございました。なお、前教頭の今西昭先生が校長に、石井慎也先生が教頭に就任されました。退職された2人の先生方からご寄稿いただきましたので以下に掲載いたします。

44年間を振り返って

山下 正昭



つい先日甲陽へ勤めることになったばかりのような気がしますのに、もう44年という年月が経ってしまいました。

私が甲陽へ勤めるようになったのは、小河清磨先生が校長に就任され、先生が担当されていた授業を替って担当する教員が必要になったためです。このことは大変ありがたいことでした。なぜなら、OBの方からよくある質問に「いつから甲陽に勤めているのですか。」というのがあります。そんな時、「小河先生が校長に就任された年からです。」と答えると、「ああそうですか。」ということになって大変便利でした。その5年後1978年4月、高等学校は発祥の地甲子園を離れ、角石町に移転しました。この5年のうち初めの2年間、私は甲子園の高等学校に勤務しました。ぼろぼろの校舎で、2年という短い期間ではありましたが、あの左右対称で重みのある校舎を忘れることはできません。そのうえ、講堂たるや窓にはステンドグラスがはいり、木の長椅子で荘厳そのものでした。この講堂をイメージして今回の中学校の講堂は、木の長椅子を採用いたしました。

1975年4月から62回生の担任として中学へ勤務し始めました。中学は木造の平屋建てでした。冬は隙間風で寒く、生徒が廊下を走ろうものなら、床は踏み抜く、窓ガラスは外れて落ちるという有様。中学の建て替えも急がないといけない状況でした。建物はともかく、中庭には大きく育ったつつじがあり、季節になると、ピンクの花を咲かせ、見事なものでした。

この44年間を仕事の面から振り返りますと、担任は62回、69回、79回（高校だけ）の15年、進学資料室室長2年、教務主任5年、教頭10年、校長8年、その他4年でした。その間に私の授業を受けたのは3000人から4000人ぐらいだと思います。断定できないのは、私が在職中にどの学年の授業を受け持ったのか、というような記録を残してこなかったからです。彼らから1つずつ知恵をもらったとして、私の知恵はずいぶん豊富になったと思います。

生徒達は学年担任の授業と学年担任外の教員の授業とを区別しているように感じます。学年担任に対しては「自分たちの先生」という気持ちが強いようです。一方担任外で授業に行きますと、容赦なく攻めてきます。私は担任外で授業をすることが多かったため、辛いものがありましたが、だんだんその緊張感が楽しくなってきました。生徒と切磋琢磨し、生徒に教えられ、育てられて今の自分があるように思います。私を育ててくれた多くの生徒たちへの感謝の気持ちでいっぱいです。

甲陽学院は創立百周年を迎え、また時を同じくして、はじめてのOB校長の誕生がありました。これを契機に、益々の発展を願っています。

長い間ありがとうございました。これをもちまして退職の挨拶とさせていただきます。

退職のご挨拶

森本 保



昭和54年4月に甲陽学院に赴任して以来、平成29年3月まで、38年間数学の授業を担当いたしました。

この間多くの先生方、職員の皆様、保護者の皆様から多大のご厚誼、ご鞭撻をいただき誠にありがとうございました。心から御礼申し上げます。ふり返ってみますと、赴任当初、宮川教頭からは「君は自分の勉強をきちんとやりなさい。そうすれば生徒は自然についてくる」とか「怒るときは本気で怒らないとだめだ」などのアドバイスを受け、村上千秋教頭自ら学年主任として率いておられる66回生の担当となりました。当時は進級に関する規定も厳しく、生徒諸君もそれを熟知していたので、授業中に私語をしたりさわいだりするようなものは皆無で、とても気持ち良く授業をすることができました。

その66回生を無事に送りだし、その後75回生、82回生を担当として送りだしましたが、どの学年も個性あふれる優れた人材でいっぱいでした。枚挙のいとまがないとはこのことで、卒業後はみな立派な社会人となっております。その一人一人が皆、私の大切な宝物です。

また、38年の在職中ずっとサッカー部の顧問をやらせていただきました。この間、大きなタイトルを手にしたことはありませんが、高校市内大会での優勝、準優勝、県総体での県ベスト16、新人大会での県ベスト16などがやが目だった成績としてあげられます。我々は学問もスポーツもどちらもがんばろうという姿勢でやっているのです、サッカーにすべてを賭けているような選手を集めたチームに打ち勝つことは容易ではない、そういう状態になっています。しかし、やり方によっては不可能ではないと信じています。そのような日が来ることを信じて後輩の皆様の頑張り期待したいと思います。私と一緒にサッカーをやってくださった人々に心から御礼を申し上げて、私のご挨拶とさせていただきます。

「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」の経過説明とご寄付のお願い

「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」も平成 17 年の制度発足から 12 年を経過し、現在までに中学・高校を合わせ年間 6～9 名、延べ 75 名（実人数 23 名）の学生に奨学金を給付し、甲陽学院中学校、高等学校を通じて経済的支援を行ってまいりました。

そこで制度発足以来 10 数年を経過するにあたり、奨学金ファンド委員会では現状の運用状況について見直しを行いました。

◎現状について

- ・対象者数 定期採用：各学年 1 名 緊急採用：若干名
*緊急採用とは急に経済的に苦しい状況が発生したときに採用
- ・支給金額 給付金額：年間 20 万円

ファンド委員会で検討し、下記の点について考えました。

1 一人年額 20 万円の適・不適について

現在、甲陽では年間約 80 万円（教材費等を含む）の授業料がかかります。高校からは最大 50 万円ほどの公的な助成がありますが、中学の場合は義務教育ですので公的な助成はほとんどありません。

2 給付人数について

現在、各学年 1 名を定期採用、緊急採用を含め年間 9 名程度を限度として給付を行っています。

◎今回の変更

- (1) 給付については、定期採用、緊急採用の区別を廃止し、単年度毎の募集とする。
- (2) 給付金額は、年間 30 万円とする。
- (3) 給付対象者数については、若干名とする。
- (4) 給付金額については、特に考慮すべき事情がある場合には厳格な審査の上、年間 80 万円まで増額することがある。

これらにより、今後、支給額が年間最大 300～400 万円になることも考えられますが、

- ・現在、皆様方から年間 200～230 万円程度の寄付を頂戴しており、不足額は年間 100～150 万円で、現在のファンド残高 6100 万円程度を考えると、数年間は問題ないと考えます。
- ・ファンド委員会ではファンドの残額を考慮しながら支給方法や支給金額なども含め、随時見直し、改善に努める等により、十分対応ができると考え、役員総会に諮った結果、承認されましたので平成 29 年度より実施させていただきます。

◎ファンドの今後について

現在、ファンド委員会では「学びの支援」という考え方で、生徒の学習を支援するための給付金を検討しております。具体的には、まだいろいろと検討中ですが、奨学金を支給することで経済的に苦しい時期に甲陽学院での学生生活を続けるための支援をすることが、皆様のご協力によりやっと軌道に乗ってまいりましたので、次は生徒たちに学ぶことの楽しさに気づく援助となる支援を行いたいと考えております。

◎最後に

甲陽だよりも掲載しております通り、同窓会では 10 数年前から、高校及び中学に毎年 1 回、社会の各分野で活躍中の同窓生の方に、母校で勉強や研究の楽しさを後輩の皆さんに伝えていただく講演会を支援しており、生徒の皆さんにも大いに好評を博しております。

甲陽学院は本年創立 100 周年を迎えました。同窓会ではここまで実人数 23 名の後輩たちの甲陽での学生生活を支援し、これからもより良い支援を続けたいと考えております。今後この支援の輪が広がり、そして過去にこのファンドの支援を受けた後輩が、我々の仲間として次はこのファンドに寄付をして後輩を支援し、ファンドを支えてくれる日も遠くはないと期待しております。

この奨学金ファンドが今後とも、我々の後輩のため、ひいては母校のために役立つように我々ファンド委員会も努力致しますので、皆様には今後ともご寄付賜りますよう、特に、甲陽学院創立 100 周年を記念して、本年は従来に増して多数のご寄付を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

尚、ご寄付頂きます場合は、同封の郵便振込用紙をご利用いただきますと、振込料を同窓会で負担致しますので便利です。ぜひご利用ください。

甲陽学院同窓会奨学金ファンド醸金者一覧

平成29年1月1日以降6月30日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(平成28年12月31日以前に醸金された方は73号～95号に掲載しております。)

22回 平田 豊	45回 小林 智夫	52回 小原 進	59回 島本 佳憲
23回 中川 経治	45回 岡本 定行	54回 前田 一	60回 阿多 博文
34回 江隈 一夫	46回 堀口 貞茲	54回 中野 茂	62回 長宅 芳男
34回 横内 昭	46回 山口 俊明	55回 桜井 太郎	63回 森 啓行
35回 國領 薫	49回 河原 啓	55回 酒井 雅弘	64回 岡原 正周
35回 太田佐喜夫	49回 井上 伸	55回 藤田 裕之	68回 園田 将章
35回 尾山 啓二	49回 村田 宣夫	56回 井上 正治	68回 森 健
37回 平澤 義也	50回 筑瀬 重喜	56回 佐野 隆夫	69回 大津 雅亮
38回 松林 輝芳	51回 辰野 久夫	56回 山崎 峰夫	74回 徳岡 俊治
38回 佐藤 康人	51回 田邊 一也	57回 芝原 功	80回 立野 靖人
39回 加輪上敏彦	51回 近藤 友之	57回 白尾 誠二	81回 山脇 敬博
39回 西牧 駒蔵	51回 横田 真彰	57回 高木 知敬	98回生育友会
41回 吉田 政彦	51回 内田 邦彦	57回 新屋 久幸	
43回 松村 矩雄	51回 井阪 博	58回 山川 丈人	
44回 米井 克夫	52回 土居 章展	59回 山崎 正明	

【醸金方法】

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
- (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンドにお振り込み下さい。
(2)の場合、振込人の卒業回が分かるようにお願いします。

平成29年度 同窓会役員

平成29年度の甲陽学院同窓会の役員は以下のとおりです。

役 職	氏 名	回生	役 職	氏 名	回生
名誉会長	有田和男	31	常務理事	中野忠夫	44
会 長	西村貞一	45		西村公男	46
副 会 長	山崎仁嗣	47		河内厚郎	52
	辰野久夫	51		吉井友実	54
	箱田光信 <small>(専務理事兼務)</small>	57		森口 匡	55
相 談 役	平田 豊	22		中務裕之	57
顧 問	横内 昭	34		嶋吉由喬	62
	尾山啓二	35		久 義 裕	62
	泥 光重	39		梅谷幸弘	67
	守殿貞夫	41		加藤和弥	69
	宮崎恒彰	42		溝口貴浩	74
	揚野 寛	45		辛島理人	75
	大川貴史	55		監 事	二宮一明
今西 昭	57	水島 昇		49	
			植木 努	65	

終身会費納付額設定表(平成29年4月1日～平成30年3月31日まで)

98回～92回	30,000円	78回	37,000円	64回	23,000円
91回	50,000円	77回	36,000円	63回	22,000円
90回	49,000円	76回	35,000円	62回	21,000円
89回	48,000円	75回	34,000円	61回	20,000円
88回	47,000円	74回	33,000円	60回	19,000円
87回	46,000円	73回	32,000円	59回	18,000円
86回	45,000円	72回	31,000円	58回	17,000円
85回	44,000円	71回	30,000円	57回	16,000円
84回	43,000円	70回	29,000円	56回	15,000円
83回	42,000円	69回	28,000円	55回	14,000円
82回	41,000円	68回	27,000円	54回	13,000円
81回	40,000円	67回	26,000円	53回	12,000円
80回	39,000円	66回	25,000円	52回	11,000円
79回	38,000円	65回	24,000円	51回～	10,000円

リレーエッセー

甲陽・カンボジアとの出会いそして愛

村上 暢昭 (82回)



えそうになりましたが、せっかくの機会を頂戴しましたので、物怖じすることなく藤川球児ばりの「ド直球」で書き切ろうと思う次第です。

私と甲陽の出会いは小学校4年生の頃でした。進学塾で甲陽に行こうと決めました。

中学入試では実ることのなかった私と甲陽との恋愛は16歳からということになります。それまでの多感な青春時代をカオス状態の公立小学校で過ごした私にとって、甲陽とは世の中とはかけ離れた純真無垢な、それでいて刺激的な場所であり、私はそんな甲陽にすっかり夢中になってしまいました。友人と上半身裸で騎馬を組み、上に上半身裸の友人を乗せて高校から甲陽園駅まで下校するなどが日々の思い出の一例ですが、この他にも甲陽での素敵な思い出は枚挙に暇がありません。そんな甲陽生活が私の人間形成の上で最も大きな影響を与えてくれた期間であることは言うまでもありません。

卒業後は順当に浪人し、翌年何とか東京大学に合格したのですが、東京でも甲陽が恋しく、月1度はたくさんの友達が下宿する京都を訪れ、友達と京大サークルまで設立してしまいました。

その後も甲陽愛が強すぎるあまり東京に馴染むことができなかった私に助けの手を差し伸べてくれたのはまたもや甲陽でした。家でネットサーフィンをしていた私の目に飛び込んだのは「東京甲陽ネット」という言葉でした。東京のOB会である同会で色々な先輩方と出会い、参加者の中でダントツに最年少であったことから非常に可愛がって頂き、そして、大学合格以降完全にニート状態の私に非常に大きな影響を与えて頂きました。その中でも鮎谷周史先輩(71回)には可愛がって頂き、進路選択時そして弁護士になって今に至るまで、様々な勉強をさせて頂いています。社会人になってからですが、鮎谷さん、前田修志君(82回)と三人で行ったアメリカ横断旅行は決して忘れられない思い出です。特に、450キロにも及ぶグランドキャニオンからラスベガスの荒野を一人で運転させられた上、車内でカジノの勉強に勤しむ二人から非常に理不尽な理由で怒られた話などは、今でも三人の中の語り草です。

さて、少し話を戻しますと、その後もモラトリアムを続けた私は、何となく神戸大法科大学院に進学し、何となく姫路で弁護士としてのキャリアを始めました。

3年半の姫路での弁護士生活後、私は、カンボジアで

法務コンサルティング事務所を営むパートナーに誘われるがままに、ボスに辞意を表明し、カンボジアに飛び込みました。私が安定した生活を捨てて、発展途上国に飛び込んだのは、仕事に飽き、そして、このままでは爆発的な、奇天烈な、そして他人とは違う将来を望むことはできないと思うに至ったからです。そして、私が新天地としてカンボジアを選んだのは、弁護士のキャリア的にカンボジアというチョイスが一般的に一番「なさそう」だったからです。

カンボジアで働き始めた当時は8畳間くらいのオフィスに私を含めて5人が肩を寄せあって仕事をしていたのですが、その後あれよあれよと言う間に、カンボジアで弁護士事務所を設立、ラオス、タイ、ミャンマーオフィス設立、昨年、弁護士法人One Asia, One Asia Lawyersというアジアに特化した法律事務所を立ち上げるに至り、カンボジアオフィスのスタッフも30人を数えるまでになりました。

カンボジアを含む発展途上国は、私達の世代が経験できなかった高度経済成長期真っ只中です。カンボジア人のほとんどはスマホを持っている他方で、多くの人は洗濯機や冷蔵庫、電子レンジを持っておらず、洗濯は洗濯板を使っているというそんな時代です。私達の事業もそんな発展途上国の発展のスピードに乗っかっているだけ、いつ人生真逆さまに転落するか分からない、凄まじく不安定な状況で戦っているというのが実感です。私もそんな環境でやっとモラトリアムから抜け出して本気になることができました。

(かなり真面目な内容になり恐縮ですが、) 発展途上国に出てきて最も大事だと思うことはスピードと決断力、そして、行動力です。反対に有害でさえあると思うのは、(誤解・反感を恐れずに申し上げます)「自分は日本人である」、「日本・日本人は優れている」という自意識です。私自身、他人の国で働かせて頂いているという意識は忘れることはないと思いますし、日本、日本と日本を過剰に意識するのは、判断を誤らせ、感性を鈍らせてしまうと思っています。

現在、カンボジアに出てきて3年です。カンボジアで色々な人・仕事に恵まれ、色々な経験、特に日本を外から見ることを経験することができました。3年経って少し周りも見えてきましたので、今からは更にギアを一つ上げて「これはイケる!」「やりたい!」と思ったことだけに、文字通り命を懸けていきたいと思っています。

文末にて、弁護士の品位を損なうような乱文乱筆お詫び申し上げます。

村上暢昭(むらかみのぶあき)

東京大学法学部卒業、神戸大学法科大学院修了、弁護士。

2014年にコンサルティング会社JBL Mekong(カンボジア)に出向後、2016年末に弁護士法人One Asia, One Asia Lawyersを設立。現在カンボジア・プノンペンに在住。

大野哲哉先生を偲んで

倉井 信夫(63回)



セントバレンタインデーの2月14日午後、同期の岩佐嘉彦君からのメールで大野哲哉先生の訃報を知りました。前日の13日、といってもほぼ日付が替わる頃の午後11時過ぎに静かに旅立たれたとのことでした。

病気や体調のことは先生ご自身から直接聞かされていたので「とうとうか・・・」というのが正直なところでしたが、奇しくもそのちょうど1年前、つまり平成28年の2月13日にはノボテル甲子園での同窓会のあと先生のお店に押しかけてみなでドンチャン騒ぎしましたし、さらにそれから9ヶ月ばかりあとの11月19日には東京同窓会の有志たちが先生ご夫妻を東京にご招待し、先生は当初ややお疲れ気味だったにもかかわらず、久しぶりに顔を見たかつての教え子たちの「現状報告」をお聞きになるにつれ、宴会が終わる頃には驚くほどお元気になられていたのがとても印象的で「これならまだしばらくは大丈夫だろう」などと思ったものです。しかしその後年末年始あたりから病状が急激に悪化したらしく、最後にお顔を拝見してから約3ヶ月後の訃報でした。

先生が甲陽に着任されたのが昭和50年。我々63回生は51年入学ですから、我々が中1のときにはまだ先生も甲陽では「新入り」だったということになります。それから高校卒業までの6年間ずっと我々の学年担当を務められましたが、6年ずっと担当したのはおそらく63回だけだろう・・・ということをお岩佐君や先生の奥様から聞かされました。それだけに先生の我々63回生に対する思い入れは強く、同期生の中には先生あってこそこの今の自分だと感謝し敬愛している者が数えきれないほどいるようで、2月15日のお通夜、16日の告別式には多くの同期生が参列しました。なかにはただお葬式のためだけに遠路はるばる飛行機に乗って日帰りや来て来たという者もあり、いかに先生が63回生から慕われていたかということをおあらためて思い知らされた次第です。

私自身の先生の思い出となるとこれはもう「柔道」しかありません。

上記のように先生が甲陽に来られた1年後に入学した私はすぐに柔道部に入部すると、柔道衣の着かたや帯の

締めかたに始まってそれから受身・・・と初歩から手取り足取り先生より柔道を教えていただきました。ある程度基礎ができて技を教わるようになると先生との乱取りが始まりましたが、なにしろ柔道の名門中の名門、天理大学出身の先生と中1の私とでは大人と子ども以上の圧倒的な力の差でまったくお話になりません。先生にしてみれば赤子の手を捻るようなもので、もちろん本来の力の2、3割に手加減してくださっていたのですが、それでも先生に投げられると痛いというより心臓がひっくり返ったかと思うほどの衝撃で、しばらく立ち上がることができないほどでした。

私の場合は先生に学級担任していただいたのは中2の1年間だけでしたが、放課後は毎日道場でお会いするわけで、いまだに私にとって大野先生とは教室でのHRや体育の授業での「教諭」というよりもあくまで「柔道の師」という印象が強いです。おそらく中1から高3まで一貫して先生より柔道の教えを受けた者はそう多くないと思いますし、先生の一番弟子になれたことを40年経ったいまでも誇りに思っています。

私はどうしても外せない仕事があったため告別式に参列することはできませんでしたが、お通夜には出席できました。交通渋滞を計算に入れて少し早めに出ましたが、思ったより道が空いていて会場に到着したのは1時間半も前でした。この時間ではまだご遺族や関係者ばかりで卒業生も含めて弔問客はほとんどおらず、私は一人で先生のご遺体の前で手を合わせていましたが、しばらくして静利一郎先生が入ってこられました。大野先生の奥様が「倉井さんは静先生にも稽古をつけてもらったことがあったんじゃないの？」とおっしゃったので、「そうです。体落して散々痛めつけられましたよ！」と答えると静先生は、「こらっ！そんなむかしのことを大野の前で言うな！」と笑って冗談を言われましたが、すぐに先生のお顔を見つめながら「最後までカッコええヤツやった」「ええことも悪いことも、嬉しいことも悲しいことも全部いっしょやったなあ」と先生に語りかけておられました。天理大以来の「戦友同士」というべき静先生の悲しみは私には想像もつかないものだったでしょう。男と男の最後の別れの場に立ち会った私は万感胸に迫るものがありました。

大野先生、長いあいだありがとうございました。ゆっくりとお休みください。

会員だより



24回 さよなら 同窓会

昨年 10 月 29 日我々甲陽 24 回生「橘友会」は宝塚ホテル「曙」での最後の同窓会を以て解散しました。

終戦の年昭和 20 年卒業の我々にとっては生きていくのが精いっぱいでしたが。次第に世の中も落ち着き、同窓生の消息もポツポツと分かってきた頃にはもう 40 年近くの月日が過ぎていました。

きっかけは昭和 59 年若くして亡くなった北村守君の葬儀に駆けつけた数人中で「同窓会をやろう」の声が出、同年 8 月西宮市「葉竹」で第 1 回の「同窓会」を持ちました。消息不明の人も多いのに 16 名も集まり旧交を温めたあと「毎年やろう」との声が出て、近久史郎、南方竜雄、織部成一の 3 名が万年幹事を引き受けることとなりました。以後学年同窓会 5 回を含め 25 回、平成 18 年迄延べ 356 名の参加が有りました。

それ以後は参加者も固定化してきたので、在阪者を主とし電話連絡で召集を掛け合い宝塚あたりで集まっていますが、寄る年波には勝てず全員 90 歳を迎え、老人の外出は危険との家人の声もあり、解散することとなりました。

淋しくなりましたがまだまだお元気で余生を楽しんでおられる同窓生諸氏も大勢居られることでしょう「お互いに 1 日でも長生きしましょう」。

最後に「甲陽同窓会」の益々のご繁栄と会員諸氏のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ筆をおきます。

甲陽 24 回生 橘友会

出席者 南方 竜雄 中島 欣一 織部 成一
近久 史郎 綿谷幸次良

(24 回 織部成一)



36回 同窓会

平成 29 年 6 月 8 日ホテル竹園芦屋で年一回恒例の第 36 回生同窓会を開催しました。

傘寿過ぎになりましたが 23 名が元気に集いました。

僧籍の岡居君の「林住期から遊行期へ—今仏教によって教えられる生き方のヒント」なる高邁な講話を聴きました。同窓会は昔の気心した仲間に戻り大いに盛り上がりました。

翌日は 5 名が芦屋カントリー倶楽部で好天にも恵まれプレーを楽しむことが出来ました。

次回同窓会は 2018 年 5 月 24 日（木）に同ホテルで元気に集まることを約束しました。

(36 回 光永三郎)



49回 在京者新年会

1980 年代後半から毎年在京者新年会を新橋界隈の小料理屋で開いていましたが、そのお店が手狭となったので、この 10 年ほどはメンバーの一人が勤める商船三井(株)の赤坂倶楽部を使わせて載っています。場所も広くなり、飲食のコスパも良くなったので参加者も増えて毎年 25 ~ 30 名が参加されています。

ここ数年ご参加載っている中川経治先生（中学時代の社会科ご担当）や、関西からの参加者も入れて 24 名が集い、3 時間があっという間に過ぎました。前回の「甲陽だより」に寄稿されている中川先生は 90 歳でいらっしゃるということですが、心身ともにお若くて集合写真で見ても 67 歳前後の我々と区別がつかないくらいです（笑）。

出席者名：

(集合写真最前列左から)谷、中川先生、中塚、今田
(前から 2 列目左から)橋爪、篠田、小野、東
(3 列目左から)桐山、登林、辻、登、阪田、長島、浦谷、村田
(最後列左から)高村、田村、齊藤、板垣、金澤、安藤、小倉
(中塚一郎)



62回 山下先生ご退職お祝いの会

去る3月18日に山下先生を訪ね中学校に同期有志が集まりました。メーリングリストやFacebookでの呼びかけに対し当日は17名が参加し、山下先生と中学校で先生をされている嶋吉さんの案内で、新しい中にも以前の雰囲気を残した中学校内をまわり、在校当時を思い出しながら懐かしい気持ちに浸る貴重な時間を過ごすことができました。

夜は引き続き芦屋モノリスにて22名の参加を得て、ささやかではありますが先生を囲みご退職お祝いの会を催しました。久しぶりの者もあり、20歳代だった頃の先生の熱血?授業など、それぞれに当時の思い出などを披露し合いながら笑いも交えての楽しい会となりました。

なお、来年1月2日は同期同窓会です。62回では同窓会の案内をはじめ今後の連絡のため、メーリングリストを作成しています。同期メーリングリストにメールを登録していない方はkoyo@watase.infoまでご連絡をお願いします。また、ホームページ (<http://www.watase.info/koyo62/>) やFacebookでも情報交換を行っていますのでこちらもご活用ください。

(62回 渡瀬誠)



<中学校訪問写真>



<2次会写真>

63回 大野哲哉先生を偲ぶ会

平成29年5月21日、ノホテル甲子園にて「大野哲哉先生を偲ぶ会」が村岡憲次氏(63回)の呼びかけで催されました。京阪神はもとより関東、中部からも駆けつけた63回生26名が先生の奥様を囲んで先生の思い出話に花を咲かせました。正午からの会合にもかかわらず、あまりの盛り上がりで用意されたお酒が瞬く間になくなってしまふ始末で、天国の先生もさぞかし苦笑されていたことでしょう。

(63回 倉井信夫)



集合写真



挨拶される大野先生夫人



会場の様子

サッカー部 OB 会

サッカー部定期戦のお知らせ

第 65 回甲陽灘サッカー部定期戦は、今年度は、10 月 1 日（日）甲陽学院中学校において開催されることとなりました。試合時間進行は例年どおりの予定で、9 時開会式のあと中学校、高等学校、OB 戦（12 時ごろ）の順で実施します。多数の OB の皆様の御参加をお願いします。また、懇親会の開催も予定しておりますので、ふるって御参加くださいますようご案内申し上げます。

中村貞三氏のご逝去を悼む

平成 28 年 12 月 30 日、前サッカー部 OB 会長の中村貞三氏（35 回）が肺炎により亡くられました。氏は心からサッカーを愛し、また、心から甲陽を愛し、そのことをいろいろな活動を通じて実践してこられました。まず第一には、甲陽学院在学中よりサッカー部において熱心に活動され、さらに灘中学、灘高等学校とのサッカー定期戦の創設を両校に提案され、その御尽力によって第 1 回大会の開催にいたり、その後現在まで開催され、去年は第 64 回となりました。

また、甲陽学院においては、昭和 48 年 4 月から昭和 50 年 3 月まで体育科の講師として教鞭をとられ、授業でも、サッカー部でも、きわめて熱心に指導され、このことが昭和 51 年の甲陽サッカー部の近畿大会への出場へとつながっています。

後年、サッカー部 OB 会長として OB 会の開催等に尽力され、また、甲陽学院同窓会の副会長として多くの同窓会行事の運営に貢献されました。これら、中村貞三氏の多くの功績を讃え、その御冥福を心からお祈り申し上げます。

(51 回 森本保)



中村さんが始めた灘との定期戦。
平成 24 年 9 月、記念の 60 回で後輩達に囲まれて

「ていさんを語る会」お知らせ

2017 年 9 月 23 日（土）ノボテル甲子園において、中村貞三氏の足跡や業績について語り合い、追悼する会を開催いたします。つきましては旧知の皆様のご参加をよろしくお願い申し上げます。

会 場 ノボテル甲子園 15～17 時
レオンヴァーグの間（予定）
会 費 7,000 円
主 催 甲陽学院サッカー部 OB 会
お申込み OB 会長 南總
TEL. 0797-87-0802 または、
eメール 武田信一郎（52 回）
nobutakeda@nifty.com まで

関西の放送局で働く卒業生の会
「関西放送甲陽会」が発足！

2017 年 4 月 21 日（金）19 時より、梅田で初の会合が開かれ、44 回生から 92 回生までの甲陽学院 OB13 人が集まりました。

最年少の私、藤岡と先輩方の年齢差は最大で半世紀近くもありましたが、音展委員長をしていた頃の話や共通の恩師との思い出話に花が咲きました。

今では当たり前前の私服登校を手に入れるに至る先輩方の武勇伝を聞くのは初めてのことで、長きに渡る「甲陽学院の歴史」と今も昔も変わらない「在校生の力強さ」を感じました。

普段はライバル局として働く関係ではありますが、このような繋がりを大切に、放送業界をより一層盛り上げていきたいと強く思った素敵な夜になりました。

放送局にお勤めの方また OB の方が、現在関西にどれだけいらっしゃるのか把握できておりません。まだお声がけができていない卒業生の皆様は、是非こちら（shinichiro.nishigaki@ytv.co.jp）までご連絡頂けますと幸いです。

(92 回 藤岡佑輔)



訃報 (平成 29 年 6 月 30 日現在)

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

Table of obituaries listing names, dates of death, and family details for members who passed away in June 2017.

■あて名ラベルの記号の見方

既に終身会費や年会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振込用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成 29 年 5 月 31 日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会費 H20 年度

Diagram showing a row of boxes representing payment status for H20, with symbols like '♪' and '卒'.

①枠の上には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

②枠内には、順に平成元年度、2 年度、...29 年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼ 記号の意味

Table explaining the meaning of symbols: '1' for paid annual fee, '0' for unpaid, '♪' for graduation, and '終' for lifetime fee.

従いまして、下段に含まれる 0 の個数 × 年会費が、未納の年会費となります。同封の振込用紙にてお支払い下さい。

★H 元年以降にご卒業の方は、卒業時から 7 年分の年会費を予めお納め頂いております。

次の 2 つの例をご参照下さい。

Example 1: Payment status for H21 and H20.

H21 年以降は未納です。未納分をお納め下さい

Example 2: Payment status for H21 and H20 with graduation symbols.

H21 年 3 月にご卒業、さらに 1 年分の年会費を頂いたので H29 年度まで納付しておられます。

◎尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

新講堂見学会と創立百周年記念誌について

本年3月中旬に竣工し、5月の創立記念音楽会でお披露目を行った中学校の新講堂ですが、収容人数に制限があったため希望されてもお入りいただけなかった方がいらっしゃいました。そこで、同窓会会員総会当日の午前中に新講堂の見学会を催します。当日は、現役生徒と卒業生によるアンサンブル部とグリー部の演奏も計画しております。早めにお出掛けいただいて中学校で演奏をお楽しみした後、ノボテル甲子園で開催される会員総会にご出席いただきますようご予定ください。

また、百周年記念事業として「創立百周年記念誌」の編纂が進められております。11月に発行の予定ですが、同窓会におきましても事務局を窓口としてご希望の方にご購入いただけるように考えております。同封いたしました振込用紙、または、会員総会当日に準備しております用紙にてお申込みくださいますようお願いいたします。

<中学校 講堂見学会>

8月26日(土) 10:00～11:30

アンサンブル部、グリー部による、現役・OB合同演奏会は10:00より約1時間の予定で行います。

<創立百周年記念誌の申込み>

販売価格 5,000円(送料込)

甲陽だよりに同封の振込用紙を用いてお振込みいただくか、当日準備しております申込用紙にご記入のうえ、現金とともにお申込みください。申込みの受け付けは8月26日までといたします。

告 知 板

「甲陽史学会」のお知らせ

平成29年8月26日(土)午前10時から正午まで、ノボテル甲子園で、「甲陽史学会」を開催いたします。報告者は公益財団法人・辰馬考古資料館の学芸員、青木政幸さん、テーマは「和同開珎銭范の製作技法」です。長年、資料館所蔵資料の調査研究を担当してこられました。現時点の日本古代貨幣研究の最前線につながる重要なテーマです。大いに期待してください。同窓生の皆さん、友人の方もお誘い合わせの上、ご参加ください。

参加希望者は事前に橋本(41回)までご連絡ください。資料準備の都合がありますので。(TEL/FAX 0798-47-8574)

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した98回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方(卒業時に7年分の年会費を前納)でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.9の表をご覧ください。

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集

*次号・第97号は、来年2月末頃に発行を予定しています。

*「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のOB会だより」などのご投稿をお待ちしています。

*原稿の締切日は、12月20日です。

夏の会員総会にみんなで参加しよう

8月26日(土) 12時30分～16時30分 於:ノボテル甲子園

夏恒例の今年の会員総会は別刷案内の要領にて開催いたします。同窓の先輩、同輩、後輩、友人、知人お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。ご家族の同伴も歓迎です。